

## 10月8日（日）第二礼拝「呪いを断ち切る」 ガラテヤ 3章 13-14節

神様が天と地を造られ、人をエデンに住ませた時には、呪いはありませんでした。しかし、善悪の知識の木の実を取って食べたために、呪い(いばらとあざみ)を受けてしまいました。

第一番目、呪いを断ち切るのはキリストの十字架です。本文 13 節「キリストは、私たちのために呪われたものとなって、私たちを律法の呪いから贖い出してくださいました。なぜなら、『木にかけられるものは全て呪われたものである』と書いてあるからです。」律法の呪いとは、申命記 28 章 15-68 にある呪いのことです。「町にあっても呪われ、野にあっても呪われる。…」どこにいても、何をしても呪われる、この呪いを、イエス様が全て受けてくださいました。木とは十字架のことであり、私達の苦い呪いを断ち切ってくださいます。

第二番目、聖霊様が呪いを断ち切ってくださいます。本文 14 節「アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及ぶためであり、その結果、私達が信仰によって約束の聖霊を受けるためなのです。」イエス様を信じる者は聖霊を受けることができます。また、聖霊は生ける水の川です。ヨハネ 7:38-39「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。」生ける水の川が流れると、赦し、祝福、癒し、永遠のいのちとなり、その流れゆくところ全てが生きます。このように、イエス様を信じる人は呪いから祝福の人生に変えられるのです。

ベートーベンの祖父は酒造りをしていて酒飲みであり、同じく、彼の父も酒飲みで、彼に暴力を振りました。ベートーベン自身も酒飲みで様々な苦しみを通り、聴覚にも障害を生じました。音楽家にとって聴覚障害は致命的なことです。しかし、彼はイエス様に出会って、1802 年第 2 番交響曲「復活」、1803 年オラトリオ「オリーブ山上のキリスト」を作り、有名な第 9 交響曲「歓喜の歌」は完全に耳が聞こえなくなった状態での作曲でした。イエス様との出会いが、彼の人生を暗闇から歓喜へと変えたのです。

第三番目、私達が先祖の罪を代わりに悔い改めて祈り、呪いを断ち切ります。三代、四代前の先祖が犯した罪によって、バビロンの捕虜になったダニエルは、先祖の罪を自分の罪のように悔い改め、先祖がバアルと結んだ契約を無効にしました。ダニエルは 70 年後の祖国の復興を文書によって悟り、3 代目の王まで総理の働きをなし、終わりの時代の預言を残すなど、神様に用いられた器でした。また、ジョン・ペネベル牧師は、先祖達がサタンと結んだ契約を破棄する宣言を信徒達に教えました。「イエス様、私は悪の道から立ち返り、あなたに従います。バアルの支配から解放してください。離婚を許可してください。私はあなただけを求めます。今、バアルと離婚したことを宣言します。私は今から永遠にキリストの花嫁として生きます。イエス様と結婚したことを宣言します。」すると、ある人は莫大な借金を帳消しにされ、弱視の人の視力が回復する等、奇跡や癒しが起こり始めました。ですから、私たちはバアルと離婚し、イエス様と結婚した者だと宣言することが重要です。アーメン！